



多摩市



総合計画改定ワークショップ ～10年後の多摩市を考えよう！～

平成30年8月11日（土）10時00分～12時15分
多摩市立関戸公民館 大会議室

- 1. 開会挨拶・趣旨説明【10:00～10:10】**
- 2. 重要テーマ設定の背景・審議会での議論内容の説明【10:10～10:25】**
- 3. ワークショップ^o（ワールドカフェ）【10:25～12:10】**
 - ・事前投票
 - ・進め方の説明
 - ・第1ラウンド～第3ラウンド（グループ別・各20分）
 - ・全体発表
 - ・最終投票
 - ・ワークショップ^oまとめ
- 4. 閉会挨拶【12:10～12:15】**

1. 開会挨拶・趣旨説明



多摩市



開会挨拶

1. 開会挨拶・趣旨説明



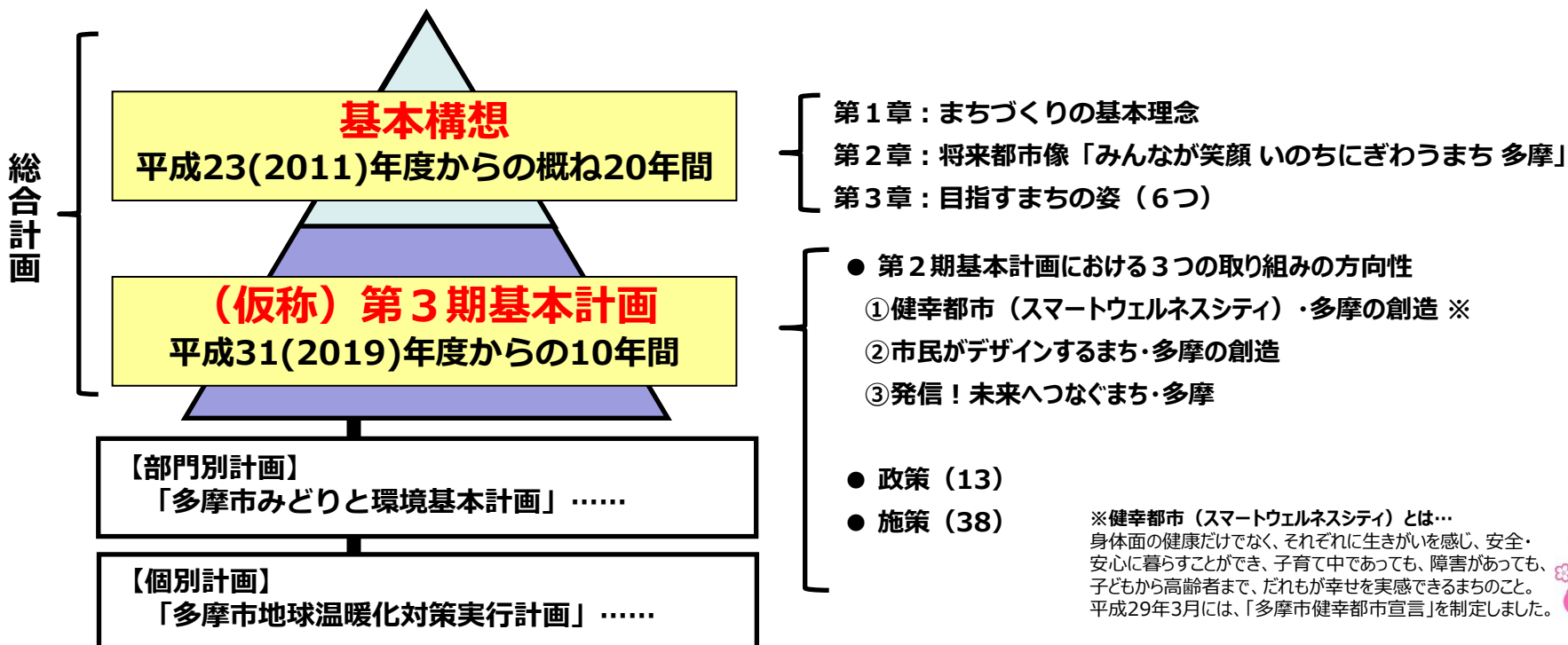
総合計画の構成と計画期間

(1) 位置づけ

- ・ 市民と行政の共通の目標として、まちづくりを進める上で根幹となる計画
- ・ さまざまな計画の中で、最上位に位置づけられる計画

(2) 構成

- ・ 基本構想、基本計画の2層で構成



1. 開会挨拶・趣旨説明



基本計画の目標体系

【目指すまちの姿1】
子育て・子育てをみんな
で支え、子どもたちの明
るい声がひびくまち

- 政策A1 子どもを育てることがうれしいと思えるまちづくり
 - 施策A1-1 子育て家庭への支援
 - 施策A1-2 子どもの健やかな成長への支援
 - 施策A1-3 子育て・子育てを育む地域づくり
- 政策A2 人と学びを未来につなぐまちづくり
 - 施策A2-1 学力の伸長と個性、創造性の育成
 - 施策A2-2 心の教育や体験活動の推進
 - 施策A2-3 健康教育と環境教育の推進
 - 施策A2-4 学校・家庭・地域等の連携の推進

【目指すまちの姿4】
働き、学び、遊び みんな
ながら活気と魅力を感じる
まち

- 政策D1 人々が集い、働く、活気と魅力あふれるまちづくり
 - 施策D1-1 商工業の振興による地域経済の活性化の推進
 - 施策D1-2 観光の視点からのまちの魅力づくりの推進
 - 施策D1-3 都市農業の振興による農からのまちづくりの推進

【目指すまちの姿2】
みんなが明るく、安心して、
いぎいきと暮らしてい
るまち

- 政策B1 生涯にわたって健やかでいぎいきと暮らせるまちづくり
 - 施策B1-1 ライフステージに応じた健康支援と市民自ら取り
組む健康的な生活習慣
 - 施策B1-2 健康を支えるネットワーク
- 政策B2 だれもが安心して暮らせる支え合うまちづくり
 - 施策B2-1 地域福祉の推進
 - 施策B2-2 セーフティネットによる生活支援
 - 施策B2-3 社会保険制度の健全な運営
- 政策B3 高齢者がいぎいきと暮らせるまちづくり
 - 施策B3-1 地域における高齢者支援
 - 施策B3-2 権利擁護と介護予防の推進
- 政策B4 障がい者が安心して暮らせるまちづくり
 - 施策B4-1 障がい者が暮らしやすいまちづくり
 - 施策B4-2 ライフステージを見据えた支援体制の構築

【目指すまちの姿5】
いつまでもみんなが住み
続けられる安全で快適な
まち

- 政策E1 安全・安心のまちづくり
 - 施策E1-1 防災・防災のまちづくり
 - 施策E1-2 暮らしの安全を守るまちづくりの推進
 - 施策E1-3 交通安全の推進
- 政策E2 安心して快適に暮らし、移動できるまちづくり
 - 施策E2-1 充実した都市機能の維持・更新
 - 施策E2-2 安全でゆとりある道路網の整備
 - 施策E2-3 地域性を生かすつつバランスの取れた交通体系の
構築
 - 施策E2-4 良質な住環境の確保の推進

【目指すまちの姿3】
みんなで楽しみながら地
域づくりを進めるまち

- 政策C1 地域で支え合い、暮らせるまちづくり
 - 施策C1-1 市民主体による地域づくり、まちづくりの推進
 - 施策C1-2 学びから、人づくり・まちづくりを推進
 - 施策C1-3 多様な担い手の力をまちづくりに活かす仕組みづ
くり
- 政策C2 豊かな心を育む、学びと文化、交流のまちづくり
 - 施策C2-1 市民の文化・スポーツ、学習活動の振興
 - 施策C2-2 多様な交流と共生によるまちづくり
 - 施策C2-3 文化の継承と創造
- 政策C3 だれもが平等で互いに尊重しあうまちづくり
 - 施策C3-1 平和の希求と人権の尊重
 - 施策C3-2 男女平等・男女共同参画の推進

【目指すまちの姿6】
人・自然・地球 みんな
で環境を大切にすまち

- 政策F1 地球と人にやさしい持続可能なまちづくり
 - 施策F1-1 自然環境・都市環境の保全と創出
 - 施策F1-2 低炭素・省エネルギー社会の構築
 - 施策F1-3 ごみの少ないまちづくり
 - 施策F1-4 環境を支える人づくりとパートナーシップの形成

1. 開会挨拶・趣旨説明



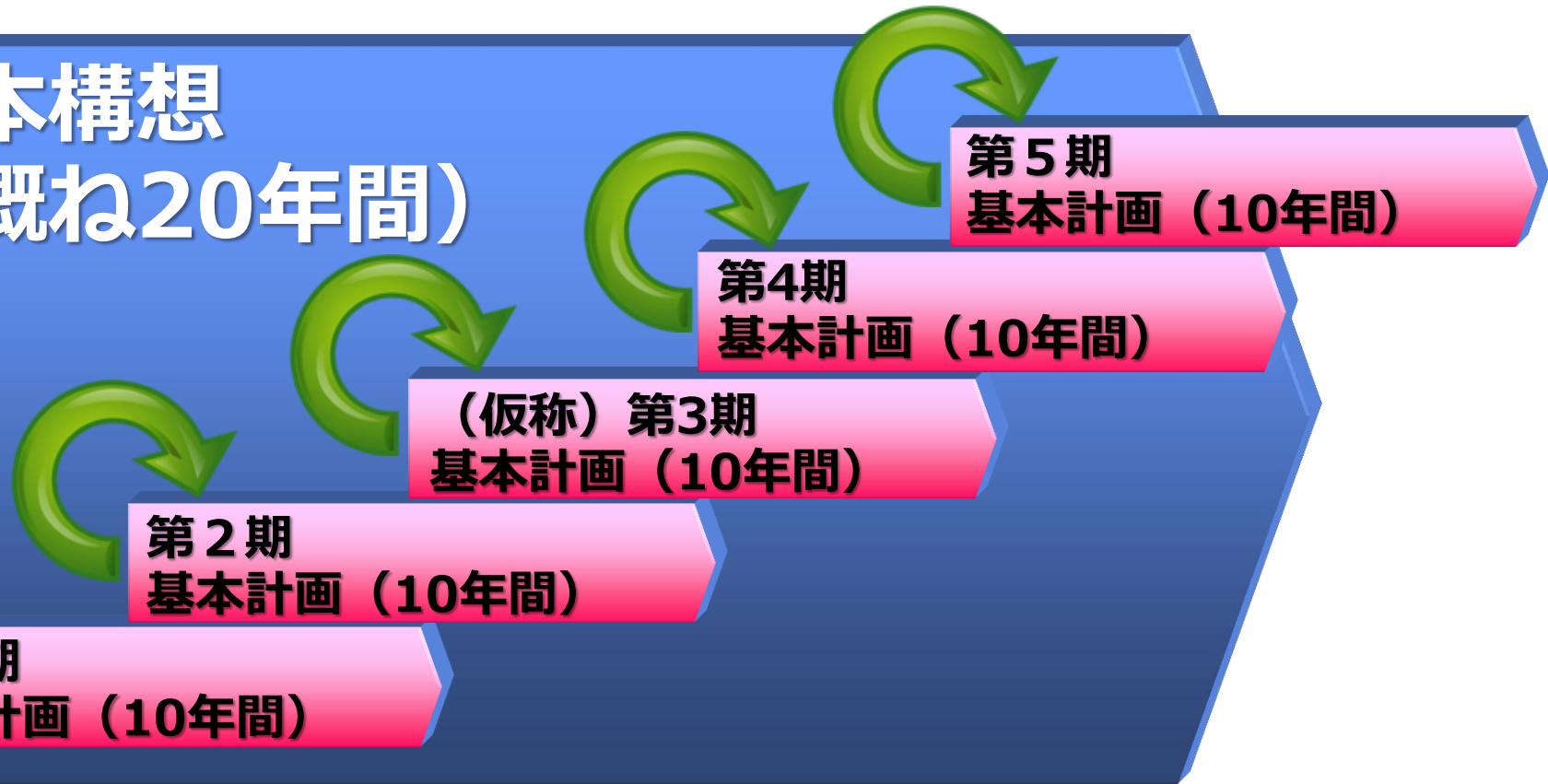
多摩市



基本計画の構成と計画期間

- 計画の実効性を確保するため、4年ごとに選出される市長公約を踏まえ、**4年ごとに10年間の計画**として改定していきます。

基本構想 (概ね20年間)



H23(2011)年

H27(2015)年

H31(2019)年

H35(2024)年

H39(2028)年

1. 開会挨拶・趣旨説明



多摩市



計画改定の基本的な考え方 (改定方針より ※平成30年3月決定)

(1) 基本構想における将来都市像の実現を目指した計画の改定

- 基本構想に掲げた**将来都市像**を実現する上で、**真に必要となる施策の立案、次期4年間で解決すべき課題や具体的に取り組むべき事項**を明らかにし、**より実効性の高い計画**として改定します。

将来都市像 多摩市の将来のあるべき姿を、みんなで共有するために決めました。

みんなが笑顔 **いのちにぎわうまち** **多摩**

安心して快適に暮らせるまちの中で、いきいきと幸せに過ごしている状態です。

市民のだれもが、それぞれの輝きを放ち、互いに関わり合いながら共存するまちのことです。生物の多様性、多文化の共生、活力にあふれたまちの賑わいなど、様々な意味を含んでいます。

1. 開会挨拶・趣旨説明



多摩市



計画改定の基本的な考え方 (改定方針より ※平成30年3月決定)

(2) 社会のあり方の変化を捉えた計画の改定

● **人口減少、少子社会、超高齢社会**が進む中で、これまで前提としてきた社会のあり方が変化することを捉える必要があります。

(例) 市民生活の面での変化

- ・共働き世帯が前提となること
- ・晩婚化等を背景に単身世帯の増加
- ・地域のあり方もが大きく変容 など

(例) 生活環境の面での変化

- ・ICT技術の急速な発達により、情報の摂取方法が変化
- ・価値観が変化するスピードが急速化 など

2018.7.1住民基本台帳人口

148,868人 (微増傾向)

	2005年 (実績)	2015年 (実績)	2060年(推計値)
総人口	145,877人	146,631人	100,606人
若者人口 (20-39歳)	46,728人	34,131人	16,939人
若者人口割合 (20-39歳)	32.0%	23.3%	16.8%

1. 開会挨拶・趣旨説明



多摩市



計画改定の基本的な考え方 (改定方針より ※平成30年3月決定)

(3) 市民とともに作る計画

- 新たな政策課題が数多く発生し、行政だけでは課題解決を図ることが難しい状況にあり、**転換期のまちづくりが求められています。**

- **「市民とともに作る計画」という考え方のもと、総合計画審議会 (※後述)、市民ワークショップの開始時期を早め、計画改定の早い段階から市民の皆さんとの対話を行います。**

※開催回数も前回の改定時(2015年)より、増やしています！

- ・ 総合計画審議会：5回 ⇒ 10回
- ・ 市民ワークショップ：1回 ⇒ 3回



1. 開会挨拶・趣旨説明



多摩市



計画改定に向けた流れ

内部検討

総合計画専門委員会
副市長以下、部長級職員で構成

総合計画策定委員会
市長以下、全管理職で構成

平成31年6月
(仮称) 第3期基本計画
のスタート!

平成30年6月～平成31年6月
多摩市総合計画審議会

平成30年5月
中・高校生アンケート

本日はこちら!

平成30年8月
市民ワークショップ^{①②}
(素案反映)

平成31年2～3月
パブリックコメント

※過去の市民参画を活用

- ・多摩市政世論調査
- ・若者のまちづくり基礎調査報告書
- ・地域活動に関する市民参画アンケート
- ・連光寺小学校6年生による「2030年の理想とする町」
- ・男女平等・男女共同参画に関する多摩市民意識及び実態調査報告書2015

平成30年12月
市民ワークショップ^③
(原案に反映)

平成31年2～3月
市民説明会

市民参画



1. 開会挨拶・趣旨説明



多摩市



●本日は、これまで3回の総合計画審議会において検討されてきた**「基本的な考え方・重要テーマ」**を、市民の皆さんの目線で自由に議論し、取り組むべき優先度を判断していただきます！

●いただいた優先度及びワークショップにおける議論の結果は、次回の第4回多摩市総合計画審議会にフィードバックし、次期基本計画で**重点的に取り組んでいくべき課題や政策のテーマ**を決定します！

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



多摩市総合計画審議会 委員一覧

区分	職名等	氏名
行政委員会等	教育委員会	鈴木 充
	農業委員会	小島 豊
	都市計画審議会	尾中 信夫
学識経験者	大学教授等	首都大学東京 都市環境学部 教授 松井 望 (会長)
		中央大学 法学部 教授 中島 康予 (副会長)
		多摩大学 経営情報学部 専任講師 野坂 美穂
	その他	多摩市民生委員協議会 会長 伊藤 雅子
		多摩市医師会 会長 田村 豊
市民委員	民間企業	飯田 佳子
		長谷川 尚美
	市民団体	妹尾 浩也
		榊 つきみ
		藤井 敬子
	公募市民	横山 誠一
		藤本 潔

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明

これまでの検討経過・今後の予定

		主な議題など	
開催済み	第1回	6月4日	<ul style="list-style-type: none"> ① 市長から総合計画審議会への諮問 ② 改定方針の報告 ③ 改定の進め方について
	第2回	7月4日	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種データに基づく分析結果報告 ② 市長公約について（市長より） ③ 計画改定の基本的な考え方・重要テーマに対する意見出し
	第3回	7月25日	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画改定の基本的な考え方・重要テーマについて（グループ議論・全体議論） <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
今後開催予定	第4回	9月4日	● 計画改定の基本的な考え方・重要テーマについて（議論→決定）
	第5～8回	11～2月	●（決定された基本的な考え方・重要テーマに基づき）政策・施策レベルの個別検討 など
	第9～10回	4～5月	● 最終調整

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明

基本的な考え方・重要テーマ（案）

第五次多摩市総合計画 第3期基本計画
【健幸都市（スマートウェルネスシティ）プラン】

※全体に関わる考え方
SDGsの考え方の取り組み
シビックプライド醸成
グローバルな視点での魅力度向上
情報発信とPR
シティセールスの推進による来街促進・定住人口増加
まちを愛する心＝シビックプライドの醸成
市民目線に立った組織づくり・人材育成
財政の安定化
「ひとり」でも幸せに暮らすことのできるまち

健幸都市（スマートウェルネスシティ）のさらなる拡充に向けて

1. 超高齢社会への対応	2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるためのまちづくり	3. 地域力の強化（世代を超えた担い手・人材の育成）、まちの活力
<p>□ 健康長寿社会の実現</p> <p>① 誰もがいきいきと生活できるための健康づくり活動の支援</p> <p>② 介護予防・フレイル予防の実践</p>	<p>□ 子育て・教育</p> <p>① 保育環境の充実・待機児童解消</p> <p>② 地域での子育て・教育を支援する体制整備</p> <p>③ 市独自の子ども・子育て支援や教育の推進</p> <p>④ 支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり</p>	<p>□ 地域のつながり</p> <p>① 地域活動を市がトータルでバックアップする仕組みづくり</p> <p>② 現役世代でも、働きながら地域活動に参画できる仕組みづくり</p> <p>③ 地域防災活動を通じた結びつきの強化</p>
<p>□ 支え合いの地域づくり</p> <p>③ 地域医療・介護体制を支える仕組みづくり</p> <p>④ 「誰もが支え手」の地域づくり</p> <p>⑤ 高齢者の居場所づくり</p> <p>⑥ 身近な地域で相談することができる場・体制づくり</p>	<p>□ 住宅・環境</p> <p>⑤ 緑豊かで子育て世代にやさしい住環境の維持・向上</p>	<p>□ まちの活力</p> <p>④ 多様性を尊重し、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりの推進</p> <p>⑤ 若者、多世代の交流拠点づくり</p> <p>⑥ 駅周辺を中心とした個性と魅力のある商業拠点づくり</p> <p>⑦ サービス産業を中心とした企業誘致</p> <p>⑧ 職住近接のまちづくり</p>
<p>□ 交通</p> <p>⑦ 高齢者の移動・出歩き支援</p>	<p>□ 若者世代の呼び込み・定住促進</p> <p>⑥ 若者世代・子育て世代の暮らしのニーズを満たす賑わいあるまちづくり</p>	
<p>□ 住宅・環境</p> <p>⑧ 住み替え支援・居住支援</p>	<p>⑦ 多摩で育った若者が住み続けたい・戻ってきたいと思うまちづくり</p> <p>⑧ 若者世代・子育て世代の声をまちづくりに反映させる仕組みづくり</p>	

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



1. 超高齢社会への対応

□ 健康長寿社会の実現

① 誰もがいきいきと生活できるための健康づくり活動の支援

【関連する委員意見など】

- ・高齢化の現状を踏まえて、多摩市の健全な経営を継続するには、高齢者が健康で、**社会活動の担い手となることがポイント**となる。

② 介護予防・フレイル（虚弱）予防の実践

【関連する委員意見など】

- ・**元気な高齢者は担い手として**、フレイル・プレフレイル状態の方は、介護予防事業につなげ、気づきから行動変容への効果的な支援体制を構築する。
- ・高齢者の方が地域の中で役割を持って生活することや社会活動に参加することは、**介護予防や生活の質の向上につながる**。



2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



1. 超高齢社会への対応

□ 支え合いの地域づくり

③ 地域医療・介護体制を支える仕組みづくり

【関連する委員意見など】

- ・多摩市には大きな医療機関もあるが、なくなると市民にとっても影響が大きい。真剣に病院・医療体制の整備をすべきである。
- ・在宅医療の体制づくりはまだまだ不十分。

④ 「誰もが支え手」の地域づくり

【関連する委員意見など】

- ・子育て中の母親の孤立、子どもや高齢者の孤立を防ぐために支えての育成が必要。
- ・ひとりでも安心して住み続けることができるまちこそが、多摩市の「健幸まちづくり」の目指す姿であり、ひとりでも地域とのつながりや生きがいを持ちながら暮らしていける地域の体制づくりを、さらに推進していくべき。

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



1. 超高齢社会への対応

□ 支え合いの地域づくり

⑤ 高齢者の居場所づくり



【関連する委員意見など】

- ・高齢者を「支える」だけでなく、**元気な高齢者を「輝かせる居場所」**づくりも必要。
- ・**子どもや若者と高齢者の交流**を促進するための整備も重要。高齢者による若者の子育て支援や支え合いのほか、多世代交流などの点でメリットが存在する。

⑥ 身近な地域で相談することができる場・体制づくり

【関連する委員意見など】

- ・医療や介護、福祉等の必要なサービスを利用しながら自立した生活を続けられるように地域ぐるみで支えるという考え方である**「地域包括ケアシステム」**をさらに進めるために、**永山モデル**のような高齢者見守り相談窓口などを地域につくる必要がある。

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



1. 超高齢社会への対応

交通

⑦ 高齢者の移動・出歩き支援

【関連する委員意見など】

- ・高齢者が地域のイベントに参加したくても、交通手段がなくて参加できないケースが増えている。地域のあり方も変わる中では、**よりきめ細やかな交通支援**が望まれる。

住宅・環境

⑧ 住み替え支援・居住支援

【関連する委員意見など】

- ・**多摩ニュータウン**における**住み替え支援**の優先度は高い。
- ・居住世代が偏らないように、住民の住み替え促進の仕組みの構築が必要。

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるためのまちづくり

□ 子育て・教育

① 保育環境の充実・待機児童解消

【関連する委員意見など】

- ・子育て世代の流入には、**保育環境の充実は必須**。
- ・世論調査では子育てしやすいと答える市民の割合が前回より下がっており、保育所待機率も増加している。



② 地域での子育て・教育を支援する体制整備

【関連する委員意見など】

- ・地域の方の協力で授業以外の時間に補習学習を行う「地域未来塾」の取り組みもスタートしている中では、**学校・家庭・地域の連携に基づく地域の教育力向上の取組**は、今後も推進していくべき。
- ・**地域での教育を担ってくれる人材の研修や発掘**は、コミュニティエリアごとに進めていく必要がある。

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるためのまちづくり

□ 子育て・教育

③ 市独自の子ども・子育て支援や教育の推進

【関連する委員意見など】

- ・「多摩市 = 子育て・子育てのまち」という特徴をつくり出すことで、若い世代に魅力あるまちになることが期待できる。
- ・多摩市の教育は、持続発展教育（ESD）やベネッセと連携したオンライン英会話など、非常に特色があるので、子育て世代に魅力があり、自らが大人になっても、多摩市の教育を受けさせたいと思える教育をさらに行うべき。



④ 支援を必要とする子ども・若者へのサポート・体制づくり

【関連する委員意見など】

- ・子どもの貧困や居場所づくりなど、子ども・若者をとりまく環境が大きく変化し、こうした変化に対応するため、「(仮称)子ども・若者総合支援条例」の制定も含めた体制づくりが必要。
- ・子どもの貧困は、「充実した教育サービス」を提供することで断ち切らねばならない。
- ・「子どもの貧困」は親の貧困であり、不登校の連鎖ともなりうるものなので、具体的な支援が喫緊の課題。

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるためのまちづくり

□ 住宅・環境

⑤ 緑豊かで子育て世代にやさしい住環境の維持・向上

【関連する委員意見など】

- ・子育て世代の流入には、**豊かな住環境は必須**。交通の便も良く、公園も多くて、自然豊かな環境に広い住まいを得ることができれば、その子ども達がいずれ同じように子育てに多摩市を選ぶという循環が続き、バランスの良い人口構成を維持できる。



□ 若者世代の呼び込み・定住促進

⑥ 若者世代・子育て世代の暮らしのニーズを満たす賑わいあるまちづくり

【関連する委員意見など】

- ・シティセールスなどで、すぐれた都市基盤、公園の多さ、教育環境など、**子育てしやすいまち**であることをもっとPRするべき。
- ・**若者にとって魅力ある駅周辺の整備、商業施設**を誘致すべき。

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



2. 若者世代・子育て世代が幸せに暮らせるためのまちづくり

□ 若者世代の呼び込み・定住促進

⑦ 多摩で育った若者が住み続けたくなる・戻ってきたくなると思うまちづくり

【関連する委員意見など】

- ・他からの若者世代の呼び込みだけでなく、そうした世代が、ふるさとである**多摩で輝くことができる取組**を行うことで、流出の抑制や将来の定住のきっかけとなる。

⑧ 若者世代・子育て世代の声をまちづくりに反映させる仕組みづくり

【関連する委員意見など】

- ・「多摩市若者会議」のように、若者の声を市政に反映させ、**これからの時代を担っていく世代に、より魅力を感じてもらえる**ようなまちづくりを今後も進めていくべき。



2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



3. 地域力の強化（世代を超えた担い手・人材の育成）、まちの活力

□ 地域のつながり

① 地域活動を市がトータルでバックアップする仕組みづくり

【関連する委員意見など】

- ・ボランティアとして関わる団体数、自治会加入率が減少傾向にあり、コミュニティ活動の担い手確保が難しいと感じている。
- ・職員が地域に入って、継続的・系統的に関わっていく仕組みが望ましい。

② 現役世代でも、働きながら地域活動に参画できる仕組みづくり

【関連する委員意見など】

- ・地域活動や市民参画を充実させるためには、有償ボランティア制度のように仕事を休んでも、活動に参画してもらえるような仕組みをつくるべき。

③ 地域防災活動を通じた結びつきの強化

【関連する委員意見など】

- ・防災は引き続き、重要な課題であり、災害弱者対策では日頃のコミュニティづくりが、有事の際に助け合いの基礎となる。

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



3. 地域力の強化（世代を超えた担い手・人材の育成）、まちの活力

□ まちの活力

④ 多様性を尊重し、誰もがいきいきと活躍できるまちづくりの推進

【関連する委員意見など】

・まちの活力のためには、あらゆる人が尊重され、自由に意見表明できることが必要。

⑤ 若者、多世代の交流拠点づくり

【関連する委員意見など】

・子どもや若者と高齢者の交流を促進するための整備も重要。高齢者による若者の子育て支援や支え合いのほか、多世代交流などの点でメリットが存在する。【再掲】

⑥ 駅周辺を中心とした個性と魅力のある商業拠点づくり

【関連する委員意見など】

・魅力あるまちづくりでは、「多摩センターと聖蹟桜ヶ丘を中心としたまちづくり」がポイント。

・「諏訪・永山まちづくり計画」に基づいた永山駅の再整備も早期に着手すべき。

2. 重要テーマ設定の背景 審議会での議論内容の説明



多摩市



3. 地域力の強化（世代を超えた担い手・人材の育成）、まちの活力

□ まちの活力

⑦ サービス産業を中心とした企業誘致

【関連する委員意見など】

- ・これまで、企業誘致条例を制定し、企業誘致を進めてきたが、今後は道路網・交通網の整備による企業誘致の可能性がある。
- ・財政基盤の確立のためには、企業誘致の効果も大きく、多摩市の主要な産業である「サービス業」を中心に発展を促すべき。

⑧ 職住近接のまちづくり

【関連する委員意見など】

- ・就業者・通学者の流入状況から、働く場所にはなっても住む場所としては選ばれていない。隣接する八王子市、川崎市、町田市とともに、地域経済を活性化することにより、若い働き手の増加につなげ、職住近接による若い世代の居住増加も期待できる。

